

## 参考資料

スジアラは熱帯・亜熱帯海域に生息するハタ科魚類で、沖縄諸島や中国本土、香港、シンガポール及び台湾等では、高級食材として高値で取引されています。中華圏では赤い色が好まれることから、特に赤色が強いスジアラは珍重され、高く評価されています。また、沖縄地方では「アカジン」と呼ばれ、名前の由来は、「ジン」という言葉が沖縄の方言でお金を意味することから、「赤いお金になる魚」という説があります。

スジアラの増養殖に関しては、1990年代から中国市場をターゲットに台湾やオーストラリア、ベトナムで天然魚を捕獲して商品サイズまで育成する蓄養が行われています。水産研究・教育機構西海区水産研究所 亜熱帯研究センターでは1985年にスジアラの増養殖研究を開始しました。そして様々な研究開発の結果、2009年には過去最高の30万尾以上の種苗の量産に成功し、その後も毎年数万尾の種苗を安定して生産できるようになりました。これらの種苗を用いた養殖試験等も行われるようになりましたが、この方法では親魚となる天然魚が不可欠であるため、天然魚に頼らない養殖手法である「完全養殖」技術の開発が期待されていました。

2016年には、人工飼育下で生まれ育ったスジアラの雄個体（2009年生産の人工7歳魚）と雌個体（2012年生産の人工4歳魚）を成熟、交配させて、6月に初めて受精卵を得ることに成功しました。その受精卵から、同年7月28日に全長32.9mmの稚魚2.9万尾（生残率24.2%）を生産することができ、世界で初めて、天然親魚に依存しない「スジアラの完全養殖」に成功したものです。